

# 子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

## 論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Association of Chlamydia trachomatis infection with pregnancy outcomes among Japanese pregnant women: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

日本人妊婦におけるクラミジア・トラコマトリス感染と妊娠転帰の関連性:  
エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 福島ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: PLOS ONE

年: 2022

DOI: 10.1371/journal.pone.0275573

筆頭著者名: 安田 俊

所属 UC 名: 福島ユニットセンター

目的:

日本の妊婦については、ガイドラインに基づき出産前に性器クラミジア・トラコマトリス(CT)感染の全数検査を実施している。しかし、CT スクリーニング導入以来、CT 感染と妊娠転帰の関連について大規模母体集団での検討はなされていない。本研究は、妊娠中 CT スクリーニング感染と妊娠転帰について本邦で初めて全国規模の調査で検討した。

方法:

エコチル調査参加者の 26,385 人のデータを用い、妊娠 28-30 週で CT 検査を行っている福島県のみデータを別に抽出し解析し、CT 検査の時期を問わない全国のデータとの違いがないか以下の方法で検討した。  
二項ロジスティック回帰分析を用いて、CT 感染の妊婦が、妊娠有害転機である早産(PTB)、早産期前期破水(pPROM)、出生体重 2500g 未満の低出生体重児(LBW)、在胎不当過小児(SGA)出産、妊娠高血圧症候群(HDP)を経験するリスクが高いかどうかを検討した。

結果:

全国の CT 感染と各妊娠転帰との関連を調査した結果、CT 感染の PTB<妊娠 37 週、PTB<妊娠 32 週、pPROM、LBW<2,500g、SGA、HDP についての調整オッズ比(95%CI)は、それぞれ 0.88(0.65-1.18)、0.74(0.30-1.85)、0.90(0.53-1.53)、1.01(0.82-1.26)、1.08(0.83-1.40)、1.18(0.87-1.60)であり、CT 陽性が妊娠有害転機に影響しないことが示された。福島県の参加者に絞っても同様の結果が見られ、それぞれの調整オッズ比に有意差は見られなかった。

考察(研究の限界を含める):

今回の研究はエコチル調査のデータを用いた日本人妊婦の CT に関する最初の研究である。日本の産科医向け診療ガイドラインに記載されているように、CT 感染が PTB を含む妊娠転帰に悪影響を及ぼす可能性を報告する研究が多く存在する。一方近年のオーストラリアの大規模な研究においては、妊娠中 CT 感染と PTB や SGA との関連は見出されていない。また日本からの最近の単施設レトロスペクティブ研究においては、CT 感染は妊娠転帰に悪影響を及ぼさないことが示され、これは今回の結果と一致する。本研究は、CT スクリーニングの方法・検査時期が明記されていないこと、質問票による調査であることに制限があるなどの限界があり、検査時期に関しては検査時期が 28-30 週に限定されている福島県と全国データを比較検討した。

結論:

妊娠中に判明する CT 感染と有害な妊娠転帰(PTB、pPROM、LBW、SGA)との関連はみとめられなかった。この結果は、今後の日本の妊婦診療に大きく貢献することが期待される。